



TITLE:

<記事>4.水族館記録 2008年

AUTHOR(S):

CITATION:

<記事>4.水族館記録 2008年. 瀬戸臨海実験所年報 2009, 22: 9-20

ISSUE DATE:

2009-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179092>

RIGHT:

4. 水族館記録 2008 年

1. 研究・教育

- 1月10日 西野 敦雄 助教と高田 樹 院生（大阪大学大学院理学研究科西田研究室）が、研究用マボヤ約400個体を搬入し、大型実験水槽（第3水槽棟作業室）を8.0-8.5℃に冷却して蓄養を始めた（研究概要については本年報第21巻、8ページ参照）。その後、4月25日までに数度回収に訪れ、蓄養を終了した。
- 1月11日 原田 桂太 院生（理学研究科）が、403号水槽脇に小水槽を設置し、キンチャクガニの飼育を開始した。
- 4月10日 京都大学理学研究科インターラボ（生物学専攻院生36人）の見学を指導した。
- 4月20日 放送大学京都学習センター公開講座臨海実習生（19人）の見学を指導した。
- 5月19日 近畿大学農学部環境管理学科の環境生態学専門実験・実習（学生26人、教員2人）の見学を指導した。
- 5月29日-9 1日 深見 裕伸 助教が、第3水槽棟屋上培養温室の水槽設備を利用して造礁サンゴ類の産卵調査を行った。
- 6月1日 奈良県立奈良高等学校普通科のサイエンスツアー（学生19人、教員3人）の見学を指導した。
- 6月1日 奈良女子大学理学部生物科学科の臨海実習（生徒15人、教諭2人）の見学が行われた。
- 6月13日 十津川村立西川中学校（生徒21人、教諭15人）のバックヤード見学を指導した。
- 6月17日 奈良教育大学教育学部の臨海実習（学生14人、教員3人）の見学を指導した。
- 6月24日-27日 紀本電子工業（株）が、海水中の二酸化炭素の影響を調べる実験で新装置（吸収塔）を第3水槽棟バックヤードに設置し、二酸化炭素の吸収効率を測定する実験を行った。
- 6月30日 テナガエビ類の孵化用容器を第2水槽室キーパーデッキ下に設置した。原田 英司 元所長の依頼（第1期ゾエアの入手を希望）に応じたもの。
- 6月30日 大阪教育大学教育学部の臨海実習（学生16人、教員1人）の見学を指導した。
- 7月10日 白浜町立北富田小学校3年生（生徒20人、教諭1人）のバックヤード見学を指導した。
- 7月16日 大阪市立大学理学部の臨海実習（学生16人、教員8人）の見学を指導した。
- 7月22日 滋賀県立膳所高等学校の生物実習旅行（生徒20人、教諭5人）の見学を指導した。
- 8月6日 京都大学理学部の臨海実習第1部（学生5人）の見学を指導した。
- 8月11日 信州大学理学部化学科の海洋科学実習（学生13人、教員2人）の見学が行われた。
- 8月18日 関西学院大学理工学部生命科学科の臨海実験・実習（学生23人、教員7人）の見学を指導した。
- 8月23日 奈良女子大学附属中等教育学校のサイエンス「夏の学校」（生徒32人、教諭7人）の見学を指導した。
- 8月26日 兵庫県立尼崎小田高等学校のSSH事業「臨海実習」（生徒7人、教諭1人）の見学を指導した。
- 9月3日- 5日 紀本電子工業（株）が、海水中の二酸化炭素の影響を調べる実験で新装置（吸収塔ほか）を第3水槽棟バックヤードに設置した。
- 9月19日 大阪千代田短期大学幼児教育科の自然探求ゼミ（学生10人、教員1人）の夜間観察が行われた。

- 10月4日 兵庫県立姫路飾西高等学校1年SSC海洋実習A班(生徒20人、教諭2人)の見学を指導した。
- 10月11日 兵庫県立姫路飾西高等学校1年SSC海洋実習B班(生徒20人、教諭2人)の見学を指導した。
- 10月16日・17日 紀本電子工業(株)が、海水中の二酸化炭素の影響を調べる実験用装置の調整を行った。
- 10月26日 久保田 信 准教授が、403号水槽のキーパーデッキ脇に小水槽を設置し、サカサクラゲ4個体(鹿児島湾産)の飼育を開始した。
- 10月28日 みなべ町立高城小学校1、2年生(生徒28人、教諭2人)のバックヤード見学を指導した。
- 11月7日- 9日 野尻 幸宏 副センター長(国立環境研究所地球環境研究センター)が、海水中の二酸化炭素の影響実験用装置(第3水槽棟バックヤード)を使用して二酸化炭素濃度の追跡調査を行った。
- 11月15日 和歌山県立田辺中学校生物部(生徒3人、教諭1人)の見学を指導した。

2. 普及

- 1月 9日 毎日新聞がアカイセエビ(303号水槽)とマンジュウヒトデ(215号水槽)を取材した(1月17日付)。
- 1月20日 紀伊民報(地方夕刊新聞)がベンガルフエダイ(当館初展示、全長13cm、403号水槽)を取材した(1月25日付)。
- 2月9日 「バックヤード体験学習」(13:30-15:30、和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座)を行った。参加者は2家族6人と白浜ビーチステーション(FMラジオ局)のパーソナリティー1人。内容は、水槽の裏側・機械室見学、餌やり体験、標本を利用した名前調べクイズなど。
- 2月12日 わかやまイベントボード(イベント情報インターネットサイト)に「春休み解説ツアー」の実施要綱を登録した。
- 2月21日 紀伊民報がマンジュウヒトデ(215号水槽)を取材した(2月24日付)。
- 3月8日 読売新聞が「水族館バックヤード体験」と「水族館磯採集体験」(4、5、6月実施分)について電話取材した(掲載日未確認)。
- 3月8日・9日 「白浜商工祭 in Big-U」(白浜町商工会主催、田辺市Big-U)に参加した。出展内容は水槽展示「白浜の海のいろんな生き物を観察してみよう!」、標本を用いたクイズ「海の動物 なかまわけ・なまえあてクイズにチャレンジ!」およびパネル展示の三本立てで行った。水槽展示では、120 の水槽5個に30種50点の沿岸動物を展示して、ライト付きルーペで観察できるようにし、水槽の前に簡単なクイズを用意した。開催中、飼育展示担当技術職員、教員、院生3~5人が常駐し、個別の説明にあたった。二日間の入場者数は12,000人(主催者発表)で、標本を用いたクイズには125人が挑戦した。
- 3月14日 朝日新聞と読売新聞が「春休み解説ツアー」の実施要綱について電話取材した(掲載日未確認)。
- 4月17日 びあイベントバンク(イベント情報インターネットサイト)に「水族館磯採集体験」と「水族館バックヤード体験」の実施要綱を登録した。
- 4月19日 「水族館の磯採集体験」(9:30-12:00)と「水族館バックヤード体験学習」(13:30-15:30)を行った。参加者は前者5人、後者4人。
- 5月13日 びあ・こどもと遊ぼう2008夏 関西版の取材シートに夏休み解説ツアー

の情報を記入し、返送した。

- 5月24日 「水族館バックヤード体験学習」(9:30-11:30)と「水族館の磯採集体験」(13:30-16:00)を行った。参加者は前者2人、後者8人。
- 5月24日 「丸ごと全国水族館ガイド」に、当館の外観と館内の写真を提供した。6月18日には記事を校正し、6月30日に見本誌が届いた。
- 5月28日 びあいイベントバンクときのくにイベントボードに「夏休み解説ツアー」の実施要綱を登録した。
- 6月1日 日本テレビ(スタッフ3人)が「1億人の大質問!? 笑ってこらえて!」の収録で取材した。
- 6月4日 「しらはまの海の生き物から学ぶ」(白浜町中央公民館との連携講座)の講演会(19:30-21:00、参加者24人)を、中央公民館集会室で行った。演者とタイトルは、田名瀬 英朋 元助手「白浜の渚から: 私見、生き物たちの盛衰抄」、白山 義久 教授・センター長「海にかかわる地球環境問題」。
- 6月7日 「水族館バックヤード体験学習」(9:30-11:30)と「水族館の磯採集体験」(13:30-16:00)を行った。参加者は前者4人、後者8人。
- 6月11日 「しらはまの海の生き物から学ぶ」(白浜町中央公民館との連携講座)の「研究施設見学と水族館体験学習」(13:30-16:30、参加者11人)を行った。
- 6月15日 Yahoo地域情報に「夏休み解説ツアー」を登録した。
- 7月4日 読売新聞が「夏休み解説ツアー」について電話取材した(掲載日未確認)。
- 7月17日 産経新聞、読売新聞、紀伊民報がタコクラゲを取材した(紀伊民報は7月30日付、他は掲載日未確認)。
- 7月19日-8月31日 「夏休み解説ツアー」を教員6人、技術職員3人で実施した。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明し(定員各10人)、表側373人、裏側368人が参加した。
- 7月21日 白浜町中央公民館羽衣分館と親子クラブ一行(30人)を、バックヤードを中心に案内した。
- 7月22日 読売テレビが取材の下見に訪れ、対応した。
- 7月23日 紀伊民報が連載記事「ふるさと探訪」で取材した(8月1日付)。
- 7月31日 読売テレビがアンドククラゲの標本とミズクラゲのポリプを取材した(8月5日「ニューススクランブル」で放映)。
- 8月2日 名古屋タイムズ(中部地方夕刊紙)が電話およびメール取材した(8月8日付)。
- 8月6日 エコロジーカフェー行(5人)を案内した。
- 8月6日 「Dokkaおでかけ探検隊」(ウェブサイト)に当館の情報を送信した。
- 9月8日 ひあ・イベントバンクに「水族館バックヤード体験」の実施要綱を登録した。
- 10月6日 紀伊民報が写真を持ち込み、オオウナギかウナギかの同定依頼に訪れた。写真では肛門の位置が特定できず同定できなかった。
- 10月18日 「水族館バックヤード体験学習」(13:30-15:30)を行った。参加者は4人。
- 11月5日 「しらはまの海の生き物から学ぶ」(白浜町中央公民館との連携講座)の講演会(19:30-21:00、参加者28人)を、中央公民館集会室で行った。演者とタイトルは、宮崎 勝己 講師「瀬戸臨海実験所の紹介」、白山 義久 教授・センター長「人間社会と海洋環境 一人の心に木を植える」。
- 11月11日 紀伊民報、朝日新聞、産経新聞がホクロヤッコについて電話取材した(紀伊民報と朝日新聞は11月12日付、産経新聞は掲載日未確認)。
- 11月18日-20日 朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、紀伊民報、和歌山放送(ラジオ局)がハナフエフキについて取材した(紀伊民報19日付、毎日新聞12月11日

付、その他未確認)。

12月13日 「水族館バックヤード体験学習」(13:30-15:30)を行った。参加者は7人。

3. 機械・設備

- 1月18日・19日 101号水槽のNo.2海水循環ポンプの更新工事が、業者によって行われた。ポンプの出力を7.5kWから5.5kWのものに下げて、電気料の節約を図った。
- 2月13日 第4水槽棟第1系統貯水槽にフィルター破損によって濾過槽から流入した砂を、エアポンプを利用して吸い上げ、濾過槽に戻した。
- 3月4日-7日 第1水槽棟の水冷ウォーターチリングユニット用冷却水ポンプ(1.5kW)を整備し、消耗部品の交換を行った。
- 3月10日-4月10日 第2水槽棟のNo.3海水循環ポンプ(3.7kW)を整備し、消耗部品の交換を行った。この間、No.2とNo.4ポンプの交互運転を行った。
- 4月7日・8日 第1水槽棟のNo.2海水汲み上げポンプ(5.5kW)の更新工事が、業者によって行われた。
- 4月11日-5月7日 第2水槽棟のNo.4海水循環ポンプ(3.7kW)を整備し、消耗部品の交換を行った。
- 4月16日 ボイラー(第2水槽棟)と空冷ヒートポンプチラー(第4水槽棟)の運転を停止し、各循環系統の加温を終了した(水温上昇に伴う冬運転の停止)。
- 4月19日 229号水槽のガラス側面部のシリコン接着部(観覧通路側)に剥離が認められたため、シリコンシーラントで再コーキングを行った。
- 5月8日・9日 第1水槽棟のNo.1海水汲み上げポンプ(5.5kW)の更新工事が、業者によって行われた。
- 5月8日-22日 第2水槽棟のNo.2海水循環ポンプ(3.7kW)を整備し、消耗部品の交換を行った。
- 5月21日 223号水槽のガラス面結露水を排出する樋を補修した。
- 5月21日-6月10日 第4水槽棟のNo.3海水循環ポンプ(5.5kW)を整備し、消耗部品の交換を行った。この間および10月28日まで、予備のNo.2海水循環ポンプを運転した。
- 6月4日-12日 地下重油タンク上部スラブのセメント張替え工事が、業者によって行われた。
- 6月16日・17日 第4水槽棟観覧通路の非常口扉の改修工事が、業者によって行われた。
- 7月16日・19日 第4水槽棟のNo.2~4熱交換器が詰り傾向にあるため、分解掃除が業者によって行われた。
- 7月19日-9月25日 水冷ウォーターチリングユニット(第1水槽棟)と空冷ヒートポンプチラー(第4水槽棟)を夜間運転し、各循環系統の水温を25-28℃に維持した(空冷ヒートポンプチラーは7月23日から運転)。
- 7月23日・30日 海水取水井戸内に流入した海藻やビニール片が、汲み上げポンプの吸い込み口に巻き付いてポンプの空転警報が出たため、除去作業を行った。
- 9月9日 第1水槽棟地下濾過槽(6面)の排水口の上蓋を10cmほど嵩上げすることによって水量を増やした。これにより、貯水槽の水位が上り、減水警報が出にくくなった。
- 10月27日 地下重油タンクと配管の漏洩検査が業者により行われ、異常は認められなかった。
- 11月5日 ボイラー(第2水槽棟機械室)の大掃除を行った。
- 11月18日 消防設備の定期点検が業者によって行われた。
- 11月19日 空冷ヒートポンプチラーとボイラーの運転を行い、101号水槽と第2水槽棟の各循環系統、第3、4水槽棟の第2~4循環系統を19~21℃に維持し

た（水温下降に伴う冬運転の開始）。

- 12月5日-8日 203, 204, 403号水槽前エプロン台の亀裂部漏水補修が、業者によって行われた。
- 12月10日 高圧受変電設備および低圧電気設備の定期点検を行った。点検中は停電（7:30-10:30）とし、自家発電装置を運転して主要箇所に送電した。
- 12月24日 大型実験水槽（第3水槽棟）でマボヤを蓄養するための準備作業を行った。冷却装置、ポンプなどを据え付けて配管作業を行い、12月26日から冷却（8℃）を始めた。

4. 収集・飼育・展示

- 1月8日 オニイソメ1個体（204号水槽内のホケット水槽）が、前年の12月4日以来2回自切し、衰弱したため新しい個体と入れ替えた。本個体は、2005年5月9日に白浜町古賀浦の潮間帯で採捕したもの（当時の全長約110cm）。新しい個体（全長約75cm）は、2005年6月24日に白浜町阪田で採捕したもので（当時の全長約60cm）、予備水槽で飼育していたが、一度自切したことがあった。
- 1月12日 マツカサウオ24尾を予備水槽（300ℓ）に収容し、強くエアレーションを行ってオキアミを舞い上がらせることで餌付けを始めた。これらのマツカサウオは、2007年11月～12月にみなべ町堺漁港のエビ刺網にかかったものを購入したもの。その後4月16日に、オキアミに餌付いたマツカサウオ15尾を410-1号水槽（「キンメタイ目」）に収容した。
- 1月18日 タコクラゲ3個体（202号水槽のクラゲ用吊り水槽）が傘に穴が開き、衰弱してきたために展示を終了した。前年8月8日から合計51個体（袋湾産、収集時の傘径1-2cm）を展示していた。
- 1月22日・23日 ニホンウミケムシが208号水槽（「軟体動物 イカ綱」）の底石の間で猛繁殖し、展示中のマダコが岩壁にはりついて底に下りようとしないうえ、このマダコを一時取り出し、水槽に淡水を張ってニホンウミケムシを駆除した。約0.4㎡の水槽底から回収したニホンウミケムシの総重量は150gあった。
- 1月26日 ナスカザメ雌（407号水槽、全長約1m）が2卵を産んだ。2005年7月20日にこの水槽で始めて産卵して以来、71個目になる。卵は、ヤギの骨軸などに巻きつけ、407号水槽に吊るして展示中。この水槽ではナス1尾（全長約90cm）が同居している。その後、年末までに1～2個の卵を20回、計34個産んだ。なお、この水槽では、水温を年中15-16℃に維持している。
- 2月21日 マンジュウヒトデ1個体（幅長10.5cm）を、矢倉哲男さん（みなべ町、漁業）より購入し、215号水槽（「棘皮動物 ヒトデ綱」）に展示した。四双島付近水深20mでヒラメ網にかかったもの。
- 3月3日 407号水槽の水位が上昇し、タイトルパネル部の隙間から観覧通路側に漏水した。ラベルケースの上に海水が落ちて、種名ラベルが濡れる被害があった。オーバーフローネットがはずれ、管内にヤセエビスが入り込んだのが原因。
- 3月4日 パネル「写真で紹介 京都大学白浜水族館」（A1、2枚）を作製し、第3水槽室東側壁面のパネル展示コーナーに掲示した。
- 3月16日 アカイセエビ（雄、303号水槽）が脱皮した。本個体は、2007年11月27日に岡本昭生さん（白浜町、漁業）から購入したもので、当館初飼育種。
- 3月17日 大型のタコ（約3kg、みなべ町沖水深200m、延縄）を、原本 恒明 氏（みなべ町、漁業）から購入した。208号水槽へ展示し、餌のアシ切身を摂食したが、3月26日に死亡した。3月31日に冷凍標本を桜井 泰憲 教授（北海道大学水産学部海洋生物科学科）に送ったところ、ミスダコと同定された。

- 3月29日 マタコ（208号水槽）の死亡に伴い、よし善商店より1個体（800g）を購入し展示した。
- 3月31日 ナメカジメ1尾が、407号水槽に吊り下げていた卵から孵化し、302号水槽に展示した。産卵日は2007年6月3日。その後、5月28日に2尾、7月7日に1尾が孵化したが、産卵日は特定できなかった。
- 4月1日・7日 エイラクブカ・ホウボウなどを、久し振りに雑賀崎漁師から購入した。
- 4月2日 ミズクラゲ6個体（傘径13-24cm）を白浜町寒サ浦（田辺湾奥）で採集し、クラゲ用吊り水槽（202号水槽）へ展示した（7月9日まで）。
- 4月3日 ヒレコダイ1個体（全長17cm）を、塩路 守 氏（みなべ町、漁業）から購入した。みなべ町目津崎沖水深70mより釣獲。
- 4月6日・7日 タカアシガニ雄3個体を、よし善商店から購入した。みなべ町堺漁港に水揚げされたもの。
- 4月10日-14日 214号水槽の石組みに小型のイソギンチャクが自然繁殖し、展示動物のウミシダ類の行動や摂食に悪影響を及ぼしていることから、水槽に淡水を張ってイソギンチャクを駆除した。
- 4月15日 紀伊民報に連載している記事「水族館に行こう！」（瀬戸臨海実験所年報第21巻、10ページ参照）を、ファイル（B5）にまとめ、読書コーナーに配置した。
- 4月18日 スギ（101号水槽）が死亡した。全長118cm、体長100cm、湿重14.6kg。両眼が腫れ、充血していた。2001年9月5日、浜路 昇二 氏（みなべ町、漁業）より購入したもので、当時の全長約60cm。
- 4月22日 解説パネル「京都大学白浜水族館の給排水システム」（A1）を作成し、第3水槽室のパネル掲示コーナーに掲示した。
- 4月24日 餌料用ワカメの入荷が途切れたため、南浜に大量に打ち上がったカゴメノリとフクロノリを集め、臨時の海藻餌料として冷凍保存した。
- 4月25日-27日 ナンヨウツバメウオ、クロタイなど408と412号水槽の魚類にベネデニア症が認められたため、ハダクリンを混ぜた餌料を投与した。
- 4月29日 餌料用ワカメを、従来の中国産ワカメの輸入ができなくなったため、やや価格の高い鳴門産に切り替えた。
- 5月14日 「幼魚育成いけす」（幅3.8m・奥行き2m・深さ2.5mのネット、101号水槽内に2003年10月20日より設置）で育てていたカスマアジ15尾・ギンガメアジ7尾・ロウニンアジ13尾・ブリ15尾が40cm程度に育ち、大型魚（ロウニンアジとスギ）に捕食される心配がなくなったと思われるので、それらをいけす外に出した。これに伴い、このいけすを撤去した。ところがブリを除いてヒラアジ類は捕食され続け、6月4日には、カスマアジ7尾とギンガメアジ2尾だけが残った。
- 5月14日 長期飼育のウミケムシ（306号水槽、全長約10cm）が死亡した。2004年8月17日に白浜町五色ヶ浜に打ち上げられたゴミの中から拾った5個体のうちの1個体を榎山 嘉郎 元技術職員（白浜町）から受贈、当時の全長4-6cm）。
- 5月14日 アマミイセエビ（303号水槽、2007年3月8日初入館）が、仕切り板下の隙間から侵入してきた、隣のアカイセエビに攻撃され死亡した。5月11日に入館後3回目の脱皮をしたばかりだった。
- 5月20日 イワホリコツブムシとナナツバコツブムシの標本を、401号水槽（「干潟」）のガラス面に容器を吸盤でくっつけて展示した。この水槽では、コツブムシ類が穴を開けた石も展示している。
- 5月28日 ナメカジメ幼魚4尾（全長18-28cm、302号水槽）の体表に、吸虫類の一種

- と思われる寄生虫が目立ってきたため、5分間淡水浴を行ったが大部分はまだ付着したままだった。その後、7月26日にも5分間の淡水浴を行なった。
- 6月3日 220号水槽横の壁面に、ホヤ類を解説するシート（A4、ラミネート加工）と、シートホルダーを取り付けた。
- 6月25日 229号水槽（「磯の生物」）の大掃除を行なった。また、成長したメジナ61尾（全長15-35cm）、クロメジナ48尾（全長15-35cm）、クサフグ75尾（全長約10cm）を北浜に放流した。
- 7月1日 イシサング類やイソバナの素潜り採集を円月島周辺で行なった。
- 7月1日 クロメ7株を北浜の岩礁（パンガロー磯）で採集し、402号水槽（「藻場」）へ展示した。
- 7月2日 402号水槽（「藻場」）で成長したメバル11尾（全長14-16cm、1+歳）を411-1号水槽（「カサゴ目」）に移した。入れ替わりに、南浜防波堤近くのタイドプールより採集したメバル11尾（全長5-6cm、0+歳）を402号水槽に収容した。
- 7月3日 カゴカキタイ幼魚29尾（全長2-4cm）を、水槽内で自然繁殖する小型イソギンチャクの駆除者として第2水槽室の14個の水槽へ分配収容した。それまで一年間、駆除者として働いたカゴカキタイ24尾（全長10-14cm）は南浜へ放流した。また、カワハギ幼魚6尾（全長2-4cm）を、底砂で自然繁殖するニホンウミケムシの駆除者として6つの水槽へ収容し、一年間駆除者として成長したカワハギ4尾（全長20-22cm）は411-3号水槽（「フグ目」）に移した。その後、カゴカキタイ幼魚を7月20日に228-1、-5号水槽に、7月22日に202、203、205号水槽に各1尾ずつ収容した。
- 7月4日-7日 203号水槽（「刺胞動物 ヒドロ虫綱・花虫綱」）の石組み壁面に小型イソギンチャクが大量に自然繁殖したため、ジュウジキサングやフタリビワガライシなどの展示動物を取り出し、水槽を淡水張りにして駆除した。続いて7月8日には、漏水予防として水槽内側ガラス上辺部のシリコンシーラントの再コーキングを行い、13日に再展示した。
- 7月7日・8日 214号水槽（「棘皮動物 ウミユリ綱」）のウミシダ類が衰弱し、ほぼ死滅したことから、水槽を大掃除し、淡水を張ってリセットを行った。再展示に際して、水槽内に水流がより行き渡るように石組みと給水方法を改良した。
- 7月7日-9日 各循環系統の重力式濾過槽（第1・2・4水槽棟地下室に15槽、計130㎡）を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行った。
- 7月11日 スギの大型個体（101号水槽）が死亡した。全長150cm、体長116cm、湿重27.8kg。2000年9月29日、金谷 敏美 氏（白浜町、漁業）より購入したもの（当時の全長65cm）。
- 7月14日 「特集展示 刺胞動物」（第3水槽室のウォールケース、5.2㎡）の標本・パネル・ラベルを撤去した。この展示は1996年8月より改良しながら展示し続けていた。この後、実験所教員5人による独自のテーマに基づいた資料（標本、パネル、文献など）に展示変更した。それぞれのテーマと担当教員は、観覧パネル順に「不老不死のクラゲに人類の夢を託す」久保田 信 准教授、「底生生物の百面相 サブミリの大きさの動物たち」白山 義久 教授、「海洋生物の多様性を調べ上げる Census of Marine Life (CoML) プロジェクト」白山 義久 教授、「漂着物は語る 一海からの贈り物」久保田 信 准教授・田名瀬 英朋 元助手、「海の動物の多様性」宮崎 勝己 講師・大和 茂之 助教、「フジツボ類の「性」」大和 茂之 助教、「温帯域のイシサン

ゴ類の特異性」深見 裕伸 助教。

- 7月14日-16日 216号水槽（「棘皮動物 ヒトデ綱・クモヒトデ綱」）の壁面やホケツト水槽の隙間に自然繁殖した小型イソギンチャクを駆除するために、展示動物を一時取り出し淡水を張った。
- 7月16日 タコクラゲ50個体（傘径2-4cm）を袋湾より収集し、202号水槽のクラゲ用吊り水槽へ展示した（11月10日まで）。
- 7月19日-21日 第4水槽棟第2循環系統魚類のベネデニア症予防のため、ハダクリーンを混ぜた餌料を投与した。
- 7月25日 214号水槽横の壁面に、棘皮動物を解説するシート（A4、ラミネート加工）と、シートホルダーを取り付けた。
- 7月28日 サカサクラゲの幼クラゲが、今夏に予備水槽（成クラゲとポリプが混在）で多数出現し、30個体（傘径0.2-1.5cm）を別の水槽に移して育てることにした。12月19日には幼クラゲが12個体に減少したが、大きさは2.3-6.5cmに成長した。
- 7月28日 サツマハオリムシとシロウリガイの液浸標本をウォールケースに展示した。海洋研究開発機構より貸与されたもの。
- 8月 4日 ロウニンアジ8尾（101号水槽）の体色が黒ずみ、雌と思われる体色変化のない個体を追尾する行動が夕方に見られたが、産卵には至らなかった。また、22時ごろにはギンガメアジの産卵が見られ、水槽が白濁した。
- 8月15日 開放式給水の水温が今夏最高の29.8℃に達した。そのため開放式水槽のアカヒトデが急激に衰弱し、翌日にはメバル（4尾、全長約8cm、402号水槽）が死亡した。さらに9月10日までに、予備水槽のナンカイボラ4個体も相次いで死亡した。
- 8月20日 モンツキイシガニ1個体（甲幅7cm）が2000年11月以来久しぶりに入館し、306号水槽に展示した。岡本昭生さん（白浜町、漁業）より購入（袋湾、カニ簗）。
- 8月21日・24日 白点病とベネデニア症予防のため、101号水槽（総水量349m³）に硫酸銅250gを投薬した。
- 8月23日 オトヒメエビ（203号水槽）が死亡し、周辺の岩礁で採集を繰り返しながら30年以上続けていた展示が途切れた。本年は周辺では見当たらないことから、8月26日に業者から3個体を購入したが、9月29日に3個体目が死亡し、その後の補充を断念した。
- 9月12日 ホシムシ類展示用の容器（写真立て式薄型、塩ビ製）を酸欠を防ぐように改良し、サメハダホシムシ3個体を収容して228-4号水槽の中に置いた。
- 10月7日 アミメウツボ（全長約80cm、409号水槽）が、他の大型ウツボ（おそらくニセゴイシウツボ）に数ヶ所を噛まれて死亡した。この水槽では9種33尾のウツボ類を同居させているが、このような闘争はめったに見られない。
- 10月7日 ベニクラゲムシ4個体（南浜で採集）を、写真立て式薄型容器（塩ビ製）に収容し、228-4号水槽に展示した。10月7日には、第2水槽棟地下の第2循環系統濾過槽の砂上と壁面から採集した5個体を追加展示した。
- 10月12日 波起こし装置を作製し、402号水槽（「藻場」）の水槽底に新たに設置した。容器にエアが溜ると浮力で容器が反転し、約1.2ℓの泡が水面に飛び出すことによって波を起こす。この水槽ではこのほかに、ししおどし式装置を給水口につけて、海藻の生育に必要な水流を作り出している。
- 10月15日 チゴガニ・ユビナガホンヤドカリ・ヤマトオサガニ・ホソウミナ・トビハゼなどを田辺市内之浦干潟から採集し、401号水槽（「干潟」）に収容した。
- 10月21日 アカオビハナダイ1尾（全長13cm）を、岡本 昭生 氏（前出）より購入

- した。当館初入館。白浜沖で釣獲。
- 10月30日 みなべ町堺漁港でイセエビ刺網・ヒラメ網等にかかった動物の収集を今季初めて行った。漁期の終了する来年4月末日まで、ほぼ毎週訪れる。
- 11月6日 ホクロヤッコ（大西洋産のクイーンエンゼルフィッシュ、全長220.1mm）を、渡瀬 政雄 氏（白浜町江津良、漁業）から購入したが、網にかかった傷がもとで11日に死亡した（詳細は、瀬戸臨海実験所年報第21巻、35-36ページ参照）。
- 11月11日 403号水槽（「岩礁 黒潮の豊かな生物」）で展示動物の入れ替え作業（おもに0歳魚に更新）を行い、同時に底砂の洗浄などの大掃除を行った。
- 11月11日・12日 シマスズメダイ27尾（全長15-16cm）、オヤビッチャ1尾（16cm）、イソスズメダイ1尾（15cm）、カゴカキダイ39尾（10-12、17-19cm）を、北浜に放流した。どれも付近のタイドプールなどで採集したもので、幼魚時代に403号水槽などの展示水槽に収容し、その後予備水槽で2~4年育てていた。
- 11月12日 ハナフエフキ1尾（全長144.4mm、本県初記録種）を、荒賀 忠一 元助手（白浜町）から受贈したが、17日に死亡した（詳細は、瀬戸臨海実験所年報第21巻、36ページ参照）。
- 11月12日-18日 第1・2・4水槽棟の各循環系統濾過槽15槽を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行った。
- 11月13日 サナタヒモムシ4個体（全長30-50cm、円月島周辺）を、当館で初めて展示した。写真立て式の薄型容器に収容し、228-4号水槽の中に設置した。
- 11月14日-27日 白点病が第4水槽棟第2循環系統の魚類に認められたため、硫酸銅を4度投与した。
- 11月25日 「幼魚育成いけす」を101号水槽内に再設置し、404号水槽（「内湾・川口で育つ魚」）で一年間飼育展示してきたヒラアジ類の幼魚40尾を収容した。
- 11月25日-12月2日 404~406、409~411号水槽（魚類のみを展示している6個の水槽）の大掃除を行った。また、いくつかの種では他の水槽へ移収したり、予備水槽の魚と交換したりした。
- 11月28日 ブダイ1尾（全長約33cm）を、湯川勝二さん（みなべ町、漁業）より購入し、410-2.3号水槽（「スズキ目 カゴカキダイ科・チョウチョウウオ科・キンチャクダイ科・スズメダイ科・ベラ科・ブダイ科」）に収容した。ブダイは付近沿岸ではありふれた磯魚であるが、これまで収集の機会が少なく、また餌料が合わずに1年以上の長期飼育ができていない。
- 12月26日 オオトゲトサカ・アカトゲトサカ・キイロトゲトサカ・ビロードトゲトサカ計43群体を、白浜町瀬戸漁港の生簀用筏から採集し、225号水槽に吊り下げて展示した。
- 12月31日 丑年にちなみ、牛に関係する和名・英名の動物（ウシエビ・オキナメジナ（ウシグレ）・ウミウシ類・ミナミハタンボ（Black-margin Bullseye））に解説ラベルを掲示した。

5. 受贈

- 1月10日 真鍋 正 氏（白浜町、漁業）より、アカオニガゼ1個体（殻径14.5cm）。網知不知湾、水深2m。
- 1月13日 永井 剛 氏（田辺市）より、アオウミガメ1個体（直甲長37.6cm、直甲幅33.4cm、湿重7.0kg、左前肢欠如）。田辺市元島の砂浜に打ちあがって衰弱していたもの。翌日死亡し、田名瀬 英朋 元助手（ウミガメ連絡協議会会員）に引き渡した。
- 1月22日 香川 徹 氏（白浜町）より、オオモンカエルアンコウ1尾（全長18cm）湯崎、水深5m。

- 4月6日・5月6日 新稲 一仁 氏（白浜町）より、ムカデメリベ2個体（体長8cm、13cm）。白浜町才野の磯
- 5月7日・7月23日 真鍋 馨 氏（白浜町）より、ミツカドボラ1個体（殻長7cm）。番所崎の磯。およびイシダイ19尾（全長7-9cm）とカワハギ1尾（全長8cm）。田辺湾。
- 5月15日 榎山 嘉郎 元技術職員より、オオケブカガニ1個体（甲幅2cm）。五色ヶ浜。
- 5月22日-10月30日 鈴木 博之 氏（白浜町）より5回に及び、タイラギ・ダイナギンボ・サツマカサゴなど6種7個体。白良浜・阪田の磯。
- 6月2日-11月10日 岡本 昭生 氏（前出）より7回に及び、クサフグ・メジナ・マダイ・マアジ・ニジギンボなど、幼魚を中心に44種495個体。袋湾内と周辺沿岸、釣りと手網。
- 6月11日 梅畑 善吉 氏（白浜町、鮮魚商）より、ケブカイセエビ1個体（体長14.4cm）とセネンダイ1尾（全長22.3cm）。田辺湾。
- 7月6日 和歌山南漁業協同組合白浜支所より、ヒガサウミシダ1個体。
- 7月23日 瀬道 隆男 氏（白浜町、漁業）より、タカサゴ3尾（全長22cm）。鴨居沖、釣り。
- 8月24日 佐藤 民司 氏（白浜町）より、オニヒトデ1個体（幅長17cm）。臨海南浜の磯。
- 8月24日-12月4日 荒賀 忠一 元助手より11回に及び、クロホシフエダイ・オキフエダイ・ヘタイ・カスミアジ・オニヒラアジなどの幼魚を中心に22種91尾。安久川口・日置川口、釣り。
- 10月3日 井濶 喜一 氏（白浜町）より、オナカイカムリ1個体（甲幅9cm）。椿、エビ刺網。
- 10月23日 三木 雅章 氏（白浜町、鮮魚商）より、コロダイ1尾（全長15cm）とホシササノハベラ1尾（全長12cm）。綱不知湾、釣り。
- 10月31日 家村 博方 氏（白浜町）より、サザナミフグ1尾（全長25cm）。
- 11月 6日 須名 晋次 氏（田辺市）より、オオモンカエルアンコウ1尾（全長27cm）。田辺市天神崎沖、エビ刺網。

6. 生物観察メモ (水槽・野外)

- 1月24日 サメハダホシムシの一種として、当館で従来扱っていた個体（背面に斑紋がある）を解剖したところ、陥入吻に三角区が認められたためサメハダホシムシであることを確認した。
- 1月28日・2月13日 ボウシュウボラ1個体が、205号の岩組みに産卵した。
- 2月8日 401号水槽（「干潟」）で、今年初めてチゴガニ4個体のウェイピングディスプレイが見られた。その後、2月16日には11個体、3月10日には13個体に増加した。
- 2月15日 衰弱したウミギク5個体とカキツバタガキ1個体（イセエビ刺網にかかって捨てられていたもの）を肉食性の巻貝の206号水槽に入れたところ、数時間後にはボウシュウボラ・オニサザエ・オオナルトボラがこれらの二枚貝に群がっていた。実際に摂食したかどうかは未確認。
- 3月 4日 204号水槽（「環形動物 ゴカイ綱」）で、展示中のケヤリムシが消失する事件が相次いだため、海水を抜いて捕食者の搜索を行った。その結果、捕食者として可能性のある動物はオオケブカガニ（1個体）だった。
- 4月4日 ロウニンアジ1個体（101号水槽）が、黒化しているのが今年初めて観察された。
- 4月13日・15日 ミズヒキゴカイの一種 *Timarete* sp. の繁殖行動が、228-4と220号水槽で見られた。
- 5月10日 モンガラカワガキ3尾（全長16-25cm）を、4月28日から408号水槽（水量11m³）で同居させているが、目立った種内闘争は認められない。
- 5月10日 イボヤギ（225号水槽、約50群体）の衰弱が目立つようになってきた。ポリプや共肉部が退縮気味で、骨格部分も爪ではがれるほど脆弱になっ

た。原因としては、冬季に外海水を十分に補給しなかったことによる閉鎖循環系（水量36.9m³）の水質悪化が原因と考えられるが、pH8.1で酸性化はあまり進んでいなかった。5月20日から外海水を60ℓ/分供給し続けたところ、6月上旬には効果が出て復調し始め、その後順調に回復した。

5月16日 ミノイソメ科の一種が、トゲミズヒキガニの体表に寄生していたので写真撮影後固定し、標本にした。

5月19日 ダルマオコゼ1尾（303号水槽）の体表に寄生しているヒドロ虫は、久保田 信 准教授によりエボシクラゲのホリブと同定された。

5月31日 ノコギリモク（402号水槽、4株）が急速に衰弱してきた。野外でも、ホンタワラ類が切れて海岸に打ち上がり始め、6月23日頃まで続いた。

6月9日-11月6日 スズメダイ科4種（ロクセンズメダイ・オヤビッチャ・シマスズメダイ・コガネスズメダイ）の産卵と卵保護行動が410-2,3号水槽（「スズキ目カゴカキダイ・チョウチョウウオ・キンチャクダイ・スズメダイ・ベラ・ブダイ科」）で見られた。卵は水槽のエボキシ樹脂塗装壁面と水槽中央のコンクリートブロックに産みつけられた。ロクセンズメダイ（成魚8尾）については6月9日～11月6日に、オヤビッチャ（成魚13尾）は6月13日～10月29日に、それぞれ10回以上の産卵を確認した。6月9日の水温は23.2℃、11月3日は21.0℃だった。

6月23日 イソギンポ2尾（228-6号水槽）に、はがし取ったチギレイソギンチャクを与えたところ、すべて摂食した。228-5号水槽（イソギンポ1尾収容）のガラスや壁面のチギレイソギンチャクが減少してきたことから、イソギンポが水槽内で自然繁殖する小型イソギンチャクに対する有効な駆除者として働く可能性がある。

6月24日 ムラサキオカヤドカリ1個体（頭胸甲長29.5mm）を、南側搬入口の植え込みの中から採捕し、計測後その場に逃がした。サザエ（無棘、殻高51.6mm）の殻に入っていた。

7月 1日 タスキモンガラとアカハチハゼ各一尾の越冬魚（1+歳）を、円月島北側の入り江水深5mで目撃した。

7月16日 オオアカヒトデ4個体（216号水槽、雄3、雌1個体）の放卵放精が、水槽掃除後の再展示直後に見られた。移動と水環境の相違が刺激になったものと思われる。

8月13日 カワハギ幼魚（1尾、全長8cm。217号水槽にニホンウミケムシ駆除用に収容）が、展示動物のモミジガイ2個体の腕の先端をつついてのを目撃した。詳しく見ると、モミジガイの腕の先端部はどれも欠損しているのが確認できた。

9月8日 226号水槽でガラス面に付着したチギレイソギンチャクをスクレーパーで掃除していたところ、ササムロ18尾（全長約20cm）が、はがれて漂うイソギンチャクを盛んに捕食した。また、10月27日に同じ作業をしていたところ、タカサゴも同様に捕食するのを確認した。

9月20日 ムカデメリベ（1個体、306号水槽）に、若いミゾレヌマエビ（体長約1cm）を与えるとよく捕食した。

10月 2日 409号水槽（「ウナギ目」）で、15時30分頃、直径2-2.5mmの半透明の卵が水中を多数漂っていた。この水槽ではウツボ類9種とゴイシウミヘビを展示しているが、産卵した種を特定できなかった。

10月17日 トウカムリ（303号水槽、白浜町鳴居産）を計測した。殻長17.0cm、湿重1615g。2004年10月26日入館時の殻長16.8cm、2006年1月30日の殻長

- 17.5cm、湿重1280gだった。餌はムラサキウニを与えている。
- 10月22日 セミエビ1個体（224号水槽）が16時頃、フィロゾーマ幼生を放出した。
- 10月27日 ナミウズムシが305号水槽（淡水）の外部濾過槽内で増殖し、その後水槽内でも多数見られるようになった。10月9日に白浜町平の用水路で採集したトゲナシヌマエビ80個体と共に紛れ込んだものと思われる。
- 10月28日 クチナシサンゴヤドリ2個体の殻（殻長1.3cmと1.8cm）が、ウミカラマツの乾燥標本に付着していた。
- 11月1日 ゴマモンガラ幼魚1尾（全長約15cm、403号水槽）が、ニシキウズの殻を殻口からせん状に割り、軟体部を取り出して捕食していた。水槽底にニシキウズの割れた殻が多数見られ、前年12月時点で64個体あったニシキウズが、11月11日にはまったく見られなくなった。
- 11月 6日 サンゴイソギンチャク（201号水槽）2個体のうち1個体が2分裂した。これで元々1個体だったものが3個体になった（前回2分裂したのは2007年8月11日）。さらに11月10日には、残りの個体も2分裂し、合計4個体となった。
- 11月22日 成長したシマアジ1尾（全長約45cm）を、226号水槽から釣り上げ、101号水槽へ収容したところ、ロウニンアジの大型個体11尾（全長80-100cm）に追われて数分後には捕食されてしまった。
- 12月12日 ラップウニ4個体を、これまで展示していた218号水槽（ムラサキウニ・クロウニ・タワシウニ・シラヒゲウニ・アカウニ・ツマジロナガウニなどを展示）から217号水槽（ガンガゼ・アオスジガンガゼ・アカオニガゼ・ノコギリウニなどを展示）に移してみた。すると、まもなくガンガゼ・アカオニガゼ・ノコギリウニがラップウニに群がってきたため、ラップウニを再び218号水槽に戻した。
7. その他
- 1月9日 水族館検討会を開いた。
- 2月4日 加藤 哲哉 技術職員が、「水産試験場成果発表会」（和歌山県農林水産総合技術センター、財団法人わかやま産業振興財団共催、田辺市紀南文化会館）に出席した。
- 3月1日 加藤 哲哉 技術職員による「瀬戸臨海実験所水族館「冬休み解説ツアー」」が、FSERC News No. 13（京都大学フィールド科学教育研究センター編集・発行）に掲載された。
- 3月18日 加藤 哲哉 技術職員が、ブレ京都大学総合技術研究会に参加した。
- 3月20日-24日 加藤 哲哉 技術職員が、国立科学博物館臨海実習の講師として、お茶の水女子大学湾岸教育研究センター（館山市）に出張した。
- 3月31日 太田 満 技術職員が定年退職した。
- 4月1日 太田 満 元技術職員が、再雇用技術職員として採用された。
- 4月9日 水族館検討会を開いた。
- 6月10日 南浜に大量に打ち上がった海藻を、町が1日ばかりで埋没作業を行なった。
- 7月11日 尾池 一夫 総長一行をバックヤードも含めて案内した。また、財務部職員2名を地下の濾過槽室に及んで案内し、亀裂・漏水箇所を中心に説明した。
- 12月17日 ウシエビ3個体を、名古屋港水族館へ寄贈した（名古屋港水族館飼育係2名が車で来館）。